

ふくし直治

議会報告

2021年
第3号

FUKUSHI NAOHARU NEWS



地域に真っ直ぐな政治

聞く

動く

伝える

〈発行〉ふくし直治 事務所

〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字中沢163-1

福士直治 プロフィール

PROFILE

学歴

平成元年 青森県立青森北高等学校卒業(20回生)

平成5年 東北工業大学土木工学科卒業(23回生)

議員歴

平成21年10月～31年3月 今別町議会議員 3期

平成31年 4月 青森県議会議員 初当選

家族構成 妻と子供2人

重点テーマ

1次産業の振興

安心安全な地域づくり

地域医療・福祉の充実

新産業の育成

観光産業による地域活性化

聞く・動く・伝える

聞 く… 私たちの地域に住む人、働く人の思いを直接聞いて政治活動に活かします。
動 く… 皆さんの声を受け止め県政に訴え問題解決のために誠意をもって行動します。
伝 える… 地域の声は県政へ、県からの声は皆さんへ私が必ず伝えます。

ご挨拶



青森県議会議員

福士 直治

日頃、私の政治活動に対し、ご理解ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

早いもので県議会議員になって2度目の冬が訪れました。寒さも厳しくなってきましたが皆さんはお変わりありませんでしょうか。

昨年はまさにコロナに始まりコロナに終わる1年だったように思います。様々な活動の制限・自粛による経済活動の減少は本県にも大きな打撃を与えました。

今こそ政治の力で県民の生活を守り、健康を守らなければなりません。

初心を忘れず、これからも地域の思いに寄り添った政治活動を心がけていきますのでよろしくお願いいたします。

新年会中止のご案内

令和3年1月に予定しておりました「ふくし直治新年会」は青森県民全体がコロナウイルス感染防止にご努力されている中、時勢を鑑みまして残念ではありますが中止とさせていただきます。今後、違った形で皆様にお会いできますよう検討してまいりますので、よろしくお願いいたします。



訂正

議会報告第2020年6月号の中で「外ヶ浜町営バスが今別町内を通行していくが素通りしていく」という表現がありましたが、現在は今別町内でも利用できるように改善されておりましたので訂正します。

県議会への提言

[6月議会]
一般質問より



01 陸奥湾におけるホタテガイ養殖業の振興について



Q
福士

新型コロナウイルス感染症の影響によって減収となったホタテガイ養殖業者の経営と収入の安定に向けた取り組みについて伺う。

A
県

漁業者の収入減に対する支援策として「漁業共済」と、「積立ぶらす」があり、本県ホタテガイ養殖業者はほぼ全員が両方に加入しており、「積立ぶらす」の積立金仮払いや、農林漁業セーフティネット資金や漁業近代化資金を無利息とし資金繰りを支援していく。

Q
福士

ホタテの輸出促進に向けて県はどのように考えているか伺う。

A
県

県産ホタテを安定的に輸出するためには北海道との差別化を図りながら、本県主力のベビーボイルホタテの輸出が重要であると考えている。「青森県輸出・海外ビジネス戦略」において、最重要品目として香港・ベトナム・台湾・EU等をターゲットとして認知度向上と販路開拓に取り組んでいる。海外バイヤーを本県に招請し、養殖現場や加工施設の視察を行った他、商談や試食宣伝によって安心・安全な県産ホタテの良さを今後もPRしていきたい。

なおはるの想い

漁業者に今必要なのは経営と収入の安定であり、これまで県と漁業者が築き上げてきたホタテ養殖産業を次世代の若者に継承していくためにも、私は眼前の困難に立ち向かっていく施策が必要と考えます。

02 商工会における広域連携化について

Q
福士

県内小規模事業者を取り巻く環境の変化に対応するためには、組織体制の小さい商工会の体制強化が必要と考えるが、県ではどのような取り組みを行っているのか伺う。



A
県

県商工会連合会では、指導機能の向上、事業の効率化、運営基盤の強化等を期待できることから広域連携の推進に向け取り組んでる。県では取り組みを後押しするため連携した商工会に対し職員定数加算、事務局長の設置基準緩和、連携事務経費等補助等の支援をしている。

なおはるの想い

東津軽郡では今別町・外ヶ浜町・蓬田村の上磯3町村が県内では初の広域連携による商工会運営をしています。それは人口減少に伴い単独運営が厳しくなっても合併するのではなく従来通りの地域に密着した運営をしていくためであり、私はそういった思いにこたえるため、今後も地域密着型商工会の必要性を訴えていきます。

03 県管理河川の 防災・減災対策について



Q
福士

県管理河川は286河川あるが、その維持管理状況について伺いたい。

Q
福士

河川内の樹木の伐採及び土砂の掘削について、どのように取り組んでいるか伺う。

A
県

県では定期的な河川巡視等により、雑木の繁茂状況や土砂の堆積状況、および護岸等河川内施設の状況を把握の上、支障箇所への対策を実施している。また、「水辺サポーター認定制度」によって約200団体を認定し、草刈等のボランティアを支援している。

A
県

河川内の樹木や堆積土は洪水時の支障になるため優先順位を検討しながら、県単独事業として順次対策を実施しています。

また、「国土強靱化3か年緊急対策」交付金により、今年度は今別川や蟹田川等において樹木の伐採や堆積した土砂の掘削を重点的に行います。

なおはるの想い

東津軽郡全域にわたって河川の現地調査をしましたが河川内の樹木の繁茂や堆積した土砂により線形が変わってしまっている箇所が多数見受けられました。この状態で洪水が起きたら地域に重大な影響を与えることから河川維持の重要性と早期改善を求めたところ、「今別川、蟹田川」長沢川等東郡内の多くの河川で維持工事が行われ改善することができました。今後も継続的に河川の環境改善を訴えていきたいと思います。



04 地域医療の 確保について



Q
福士

地域医療構想における自治体病院に期待する役割について伺う。

Q
福士

外ヶ浜中央病院の建て替えに当たり、地域医療介護総合確保基金を活用した支援が必要と考えるが、県の考えを伺う。

A
県

本県では地域における高度医療、救急医療、災害医療等を担う「中核病院機能」や町村部における「へき地医療」の多くを自治体病院が支えている。将来担うべき役割を見据え、医療ニーズの変化に対応し、包括ケアシステムの推進にも取り組んでいく。

A
県

外ヶ浜中央病院は蓬田村以北ので唯一の自治体病院として2次救急医療やへき地医療、回復期医療等を提供しているほか地域包括ケアシステムの中心的な役割を担っている。建て替えの検討に対しては県として地域医療構想の実現に資する取り組みについて同基金を活用しており、調整会議や医療審議会の意見も踏まえ検討していく。

なおはるの想い

外ヶ浜中央病院は上磯3町村にとって地域医療における中核病院です。建て替えが検討されている中、将来を見据えた議論が必要であり、地元負担の軽減も重要な課題です。私は地域の意見を踏まえ、この事業に対し国・県から支援をしていただけるように今後も努力していきます。

決算特別委員会

令和2年10月15日

令和1年度主要施策成果説明書について



01 消費動向を見据えた販売戦略の展開について

Q 福士

ポイルホタテ等の業務用食品の販路拡大について伺う。

A 県

首都圏への県内食材の紹介や事業者とのマッチング、商談会出店補助等により販路拡大を支援するとともに、取組み意欲の高い農林漁業者には六次産業化サポートセンターにより、商品開発支援を行っている。



なおはるの想い

コロナウイルス感染症拡大は外食産業を低迷させ、本県食品販売にも悪影響を及ぼしています。私は生産者や加工業者を守る更なる対策だと考えています。

02 「あおもりの肴」消費拡大レベルアップ事業

Q 福士

「あおもりの肴フェア」の取組みと成果について伺う。

A 県

「あおもりの肴フェア」は県内食品スーパー等で定期的開催され好評である。購入者には本県漁業者をモデルにした「漁師カード」を配布することで注目を集め本県水産物の認知度向上にも貢献していると考えています。

青森発
「漁師カード」



なおはるの想い

「漁師カード」は県産食材と生産者の若者をPRできて、そこから本県食材の安心安全も見ることが出来る良いアイデアだと思います。今後の発展に期待します。

03 国道280号蓬田～蟹田バイパスの整備について

Q 福士

蓬田～蟹田バイパスの工事が外ヶ浜警察署交差点から止まってしまったように感じるが進捗状況について伺う。

Q 福士

県の考えるバイパスの整備効果とは

A 県

計画延長6.8kmのうち残りは0.8kmで現在、用地買収を進めており年度末には7割程度となる。

A 県

本バイパスの整備により外ヶ浜町中心部から市内へのアクセス機能向上により、通勤圏が広がり定住化促進に効果がでている。

なおはるの想い

津軽半島全体を考えたとき奥津軽いまべつ駅まで延伸して初めて最大の効果を得られると思います。奥津軽いまべつ駅の利用促進や住民の利便性向上、安全・安心の為に早期のバイパス延長を要望していきます。

04 女性発信！ 農業者・漁業者の健やか力向上事業の取組みについて



Q 福士 | 1次産業従事者の健康増進へ向けた女性発信の取組みについて伺う

A 県 | 農漁業者の健康診査実施率は低い傾向にあり、健康意識の高い女性に家族や地域に対して健康的な生活習慣づくりを広めてもらい、今後も体験型セミナー等の開催により意識の向上に努める。

なおはるの想い

健康意識の向上は「短命県返上」を掲げる本県の大きな課題であり、女性のパワーを借りて周知を促す事は良い案だと考える。今後の継続的な取組みと成果に期待したいと思います。

05 ナースセンター事業の取組みについて



Q 福士 | コロナ禍において看護師の育成と労働力不足の解消は重要課題と考えるが県の取組みについて伺う。

A 県 | 県では「青森県ナースセンター事業」により、子育て等の理由で離職した看護師の無料職業紹介や、ブランクによる不安軽減のため看護力再開発講習を実施し、再就業の後押しをしている。年々再就業者は増加傾向にあり効果は表れている。

なおはるの想い

コロナ感染症拡大に伴い、医療従事者のマンパワー不足が問題となっており経験者は貴重な人材と考えています。現在従事されている方の負担軽減のためにも就業者増加に取り組んでほしいと思います。

06 交通安全対策の推進について

Q 福士 | 本県における歩行者が被害者となる交通事故抑止対策について伺う。

なおはるの想い | 交通事故は被害者の苦痛は無論ですが、加害者も重責を負います。特に重大事故になりやすい歩行者事故の抑制には重点的に取り組んでほしいです。

A 県

県内74の事業所を「歩行者保護実践モデル事業所」に認定し、横断歩道の減速・一時停止の徹底、夜間のハイビーム適切使用等歩行者保護を実践している。今後はモデル事業所の運営が模範となり一般ドライバーの意識が高まることに期待する。その他にも「横断歩行者妨害取り締まり強化日の設定」や県内55カ所を「歩行者重点地区」に設定し、街頭活動による意識向上を図っている。

07 クロマグロの資源管理について

Q 福士 | 水産庁指導の下、漁業者は漁獲制限による太平洋クロマグロの資源管理に取り組んでいます。県の取組み状況を伺う。

A 県

今年度は関係漁協等に過去の漁獲実績に応じて漁協別・漁業種類別での漁獲枠の配分・融通等の指導・助言を行ってきたが、融通面で反省点があった。次年度は今期の結果を踏まえ漁獲枠の配分時期を2段階に分け、より実情を反映させた実施ができるようにする。

新幹線・鉄道問題対策委員会

青函トンネルの高速走行実施について

Q
福士

奥津軽いまべつ駅は現在上下合わせて14本が停車しており、駅利用率向上のためイベント等の積極的開催するなどして地域を挙げて協力している。
青函トンネル内の高速走行は朗報であるが、時間短縮に傾倒し本駅に停車本数減少等の影響がないか確認したい。

Q
福士

今年9月に奥津軽いまべつ駅と津軽中里駅を結ぶ定期路線バス「あらま号」が廃止となり11月から予約制乗合タクシーにかわる。
私は本駅の利便性向上や利用客増加の為に2次交通の役割は非常に大きいと考えるが県の考えを伺う。

A 国土交通省鉄道局次長

停車本数については基本的にはJR北海道において検討されるが、現在ご利用の方々の利便性を踏まえて考えていく。

A 交通政策推進監

あらま号は奥津軽地域の観光振興に一定の役割を果たしてきた。今後、予約型乗合タクシーに代わっても、地元と連携し運行支援やPR等利用促進を積極的に実施していく。

なおはるの想い

今後は観光地である竜飛崎や平館方面へのアクセス向上と、新幹線利用者に迂曲・狭隘な小国峠が敬遠される事がないように、アクセス道路の環境整備を要望しました。

県議会議員は普段どうしてるの？



7月に「平内町議員親睦パークゴルフ」に参加しました。毎年東津軽郡では「議員健康管理セミナー」が開催されていますが、今年はコロナウイルス感染症の拡大により中止となりました。そのような中で平内町では健康増進の重要性から規模を縮小し、「議員親睦パークゴルフ」が開催され、私も参加することができました。晴天の中、議員の皆さんと心地よい汗を流し、終始笑い声の絶えないイベントでした。来年は東郡の町村議員が一同に集まっての開催を望みます。



11月の第1日曜日は毎年妻の実家へリンゴの収穫のお手伝いに行きます。親類が大勢集まり、赤々としたリンゴの収穫作業は本当に楽しいものです。写真は私も木からリンゴを取っていますが、実はお手伝いのほとんどはトラックに収穫したリンゴを積んで農協に持っていく地味な肉体労働でした(笑) 私は義母が1年間丹精込めたリンゴの収穫を毎年楽しみにしています。



編集後記

第3号となります今回の議会広報は、第302回定例会と決算特別委員会の質疑が主な掲載内容となりました。
現在はコロナ感染症対策によって様々な活動が制限され、大人数となる集会等も出来なくなっておりますが、そのような中で私は皆さんに会ってお話で

きない分、いつもより多くの議会活動を見ていただきたいと思い、ページ数を増やし新年特大号として発刊することにしました。
今後も「聞く・動く・伝える」を信条として、地域の皆さんと共に歩んでいきたいと思っております。最後まで読んでいただきありがとうございます。